

# 2010年版中小企業白書 概要

2010年版の中小企業白書が、4月27日閣議決定されました。今回の同白書では、最近の中小企業の動向について分析するとともに、中小企業の更なる発展の方策として、国内制約が高まる中での新たな展開及び国外の成長機会の取り組みについて分析を行っています。

今号では「第1部 最近の中小企業の動向」を、次号では「第2部 中小企業の更なる発展の方策」のポイントをご紹介します。

## 第1部 最近の中小企業の動向

### 1-1. 内外経済の動向

2007年夏以降の金融市場の混乱により、世界経済は急速に悪化し、主要国の実質GDPは総じて大幅に減少し、世界同時不況の様相を呈した。我が国経済も輸出の大幅な減少により、輸出型の製造業を中心に大きな打撃を受けた。

その後、実質GDP成長率は、中国ではインフラ投資や消費拡大等の景気刺激策の効果もあって、2009年1-3月期以降、前年比で10%近い伸び率を記録し、日本においても、景気刺激策や中国を中心とするアジア向け輸出により、2009年4-6月期に、前年比でプラスに転じるなど、持ち直しの動きが見られるものの、業種・規模によってその動きに違いがある。特に資金繰りと雇用は依然として厳しく、デフレや円高の進行等、先行きにリスクがある。

#### 主要国の実質GDP成長率

～世界経済は、リーマン・ショック後に急速に悪化した。足下では景気刺激策等の効果もあって、アジアを中心に緩やかに持ち直してきている～



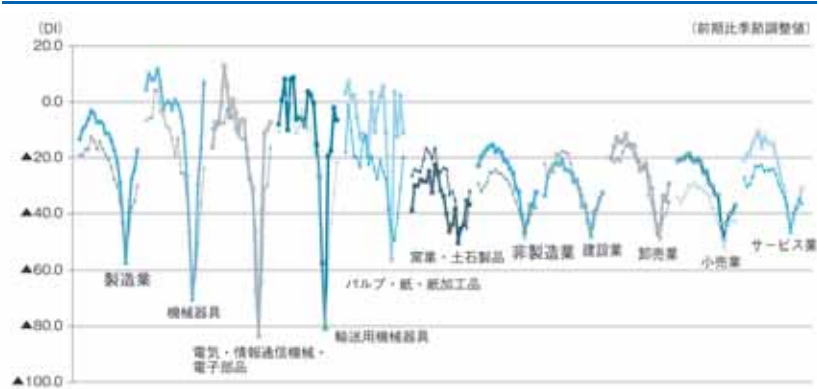
資料：内閣府「海外経済データ」、中国人民銀行資料より作成  
(注) 中国人民銀行の試算は2008年10-12月期以降のみ公表。

### 1-2. 中小企業の動向

中小企業の業種別業況判断DIは、電気・情報通信機器・電子部品や輸送機械器具では持ち直しが見られるが、小売業・サービス業等の非製造業では持ち直しは緩やかであり、また小規模企業では、中規模企業に比べて総じて業況判断DIの水準が低いなど、業種及び規模によってその動きに違いが見られる。

#### 規模別・業種別の業況判断DI

～業況判断DIは、総じて持ち直しの動きが見られるが、業種及び規模によってはその動きに違いが見られる～



資料：中小企業庁・(株)中小企業基盤整備機構「中小企業業況調査」  
(注) 1. 太線は中規模企業、細線は小規模企業。  
2. 期間は2005年1-3月期～2010年1-3月期。